

## 議案第1号

### 平成26年度 法人本部 事業報告 (案)

#### I 平成26年度の状況

法人として初めて倉吉市に施設を開設（平成27年5月1日開所／老人デイサービス）するのに伴い新たな建設資金を借入れた。一日も早く地域の信頼と評価を得られるよう取り組んでいく。  
また、引き続き安定的で健全な法人経営が出来るよう、積極的に努めていく。

#### II 基本方針に対する評価

1. キャリアパス概要図に沿い、一貫した職員の育成を目指す
  - ・キャリアに応じて施設内研修、施設外研修に参加した。
2. 働きやすく“怒”の心のある職場の風土づくりを行う
  - ・職員満足度アンケート結果を基に主任・リーダーが中心的に取り組み、働きやすい職場づくりを目指した。（業務改善、リフレッシュ休暇取得、コミュニケーション充実 等）
3. 健全で安定的な経営と法令を順守した経営を行う
  - ・定款をはじめとする各種規則・規程の見直しを行い法人ルールの再確認を行った。（経理規程、給与規程、決裁規程、運営規程等）
4. 3カ年計画最終年における検証と第三期中期計画の立案（方向性の検討）を行う
  - ・幹部会（主任・リーダーが組織する会）を中心に各部署で第二期3カ年計画の検証を行い、第三期3カ年計画の方向性を作った。

#### III サービス目標の評価

1. 尊厳あるケアの実践と誇りあるサービスの提供
  - ・コミュニケーション研修を年2回実施し、コミュニケーション能力を高めた。（参加者：42名）
  - ・あいさつ運動の実施（アンケート、標語を毎月更新、チェックを毎月実施）  
アンケート結果（評価）：あいさつ良い（大変良い含む）98%
2. 健全経営の推進
  - ・業務分担については、サービス別検討会・補正予算会議で協議し費用対効果の検証も行った。
  - ・法人情報の公開—全国経営協の会員法人情報公開ページ登録に続き、当法人ホームページ上でも公開した。（8/6「情報公開」コーナー新設）
3. 地域ニーズに基づく新規事業に向けた調査研究・市場調査を行う
  - ・新規事業に向けた調査により、医療法人清生会が新設される有料老人ホーム（如心庵）の隣に老人デイサービス（デイサービスセンター三喜苑西郷）を開設することとなった。

#### IV 能力開発目標の評価

1. 主体性を持ち自立した職員の育成
  - ・各委員会から→主任・リーダー会へ意見、提案があり、それに基づき、改善を実施した。
  - ・各種研修会を毎月実施した。（全体会：平均73名参加／職員研修：平均19名参加／施設外研修延べ325名参加）
  - ・平成26年度資格取得・修了者状況  
介護支援専門員合格者1名、介護福祉士合格者1名、認知症実践者研修4名、認知症リーダー研修1名、リーダー育成研修2名、社会福祉主事1名、特定行為指導者研修1名、認定特定行為業務従事者研修2名
  - ・評価表（考課表）の見直しと面接の実施

2. 経営管理における業務改善・見直し

- ・新会計基準対応ソフトの導入が完了し、平成26年度予算より活用した。引き続き研修会に参加し適切な理解に努めた。

V 地域目標の評価

1. 地域に信頼される事業活動（互助）の展開

- ・ボランティア受け入れ延べ678名（前年比94.5%）（新規3グループ増）、『ボランティアの集い』を1回実施した。
- ・「論語三代事業」を開催した。三朝町内の芸能文化祭、駅伝、ソフトバレー大会に参加
- ・介護予防教室を7回開催した。（地区集会、老人クラブ等）

2. 防災意識の向上

- ・原発事故（島根原発関連）時の受け入れ施設に認定された。（16名受け入れ）
- ・今年度も仁の里、サテライトデイサービス（山田）で三朝町及び三朝町消防団指導の下、防災訓練を実施した。

VI 業務目標の評価

1. 職員満足度の追求（“怨”の心のある職場の風土づくり）

- ・満足度アンケートを継続し、満足度の上昇がみられた。（アンケート項目：30項目）  
平均満足度81.4%（前年度平均71.9%）
- ・感動作文・笑顔フォトコンテストで応募数46点

2. 人材の獲得と定着化

- ・鳥取中央育英高、倉吉北高のインターシップ（職場体験）、倉吉総産高の「くらそうサロン」受入れ、倉吉北高就職ガイダンスへ講師派遣、三喜苑夏祭りで倉吉農高のバザー開催
- ・新規採用時研修を4回（11名）実施

3. 法人全体の利益率 年度当初の計画：3%

- ・法人全体の利益率（新会計基準による「事業活動」収支）は8.86%だった。

4. 効果的・計画的な経営管理

- ・経理規程に基づく職務分担を決定・再確認した。

5. 計画的な資金活用と管理

- ・県へ補助金申請を行い、結核健診（利用者）に係る費用の一部を補助して頂いた。
- ・県補助金の法人監査（H25年度決算に係る）を受けた。「指摘・注意事項ともになし」
- ・規程に基づき新規事業資金として市中銀行より設備資金を借入した。（鳥取県知事承認。新規事業用に8,000万円）

6. リスクマネジメントの充実

- ・訓練回数 避難訓練2回（日中・夜間－訓練未経験者中心に実施）／夜間通報訓練2回  
放水訓練1回（屋内消火栓）／消火訓練1回
- ・11月全体会で防災設備等について基礎知識を学ぶ機会を設けた。
- ・労働災害はゼロ。しかし、確定していない労働事故2件申請中。（腰痛、足－3月末現在）

7. 職員の処遇改善

- ・「一般事業主行動計画」の推進として「ノー残業デー」の取り組みを引き続き呼びかけた。また、法改正（法：次世代育成支援対策推進法／法律の有効期限が10年間延長）に伴い「一般事業主行動計画」も期間延長して引き続き取り組むこととなった。
- ・介護職員処遇改善加算を活用した賃金等の改善を引き続き行った。
- ・昨年に引き続き「職員の健康」をテーマに協会けんぽ職員、保健師による健康講演会（職員全体会）－健康保険の話しや腰痛対策中心の体操指導－を開催した。

# 平成26年度 役員会等実施状況

日 付	会議名(開催時間)	主 な 議 案
平成26年5月15日	監査会 9:00～	○平成25年度事業の監査
平成26年5月22日	第73回理事会 15:00～ 第63回評議員会 10:00～	○平成25年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○定款の一部改正について ○評議員の交代について ○評議員の重任について ○新規事業計画(事業内容・建設計画)について ○平成25年度社会福祉法人指導監査の結果について(回答) ○運営規程の一部改正について(職員配置)
平成26年11月13日	第74回理事会 14:00～ 第64回評議員会 10:00～	○平成26年度 各事業 追加補正予算について ○評議員の交代について ○苦情解決第三者委員の交代について ○苦情解決第三者委員の重任について ○役職員給与規程の一部改正について ○新規事業計画 事業内容・建設計画・資金借入計画・建設資金計画について ○勤勉手当の支給月数について ○軽費老人ホーム事務費(補助基準額)単価について(報告) ○決裁規程の一部改正について(報告) ○平成25年度決算に係る財政的援助団体等事務監査結果(報告) ○倉吉労働基準監督署による安全衛生指導について(改善報告)
平成27年3月22日	第75回理事会 14:00～ 第65回評議員会 10:00～	○平成26年度 各事業 追加補正予算について ○平成27年度 各事業 事業計画及び予算について ○新規事業計画 基本財産担保提供承認、銀行借入について ○指定通所介護(三喜苑西郷)運営規程について ○定款の一部改正について ○経理規程の一部改正について ○役職員給与規程の一部改正について ○運営規程及び重要事項説明書の一部改正について ○平成26年度老人福祉施設指導監査の実施結果について (通知・回答)(ケアハウス) ○平成25年度決算に係る財政的援助団体監査結果(最終報告) ○特別国税調査官による国税(所得税)調査について(報告)
平成26年9月25日	社会福祉法人研修会 13:15～ (監事監査研修)	○「新社会福祉法人会計基準の考え方・概要及びポイントについて」 (役員参加者:1名)
平成27年1月19日	社会福祉法人研修会 13:00～ (役職員向け研修)	○「社会福祉法人制度の在り方検討の背景と求められる経営について」 ○「新会計基準移行に際しての最終チェックのポイント」 ○「社会福祉法人における情報公開について」(行政説明) (役員参加者:3名)

平成26年度 指定介護老人福祉施設 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

医療依存度の高い方が増え、定期的に入院の必要な方も多くなっている。体調変化の早期発見、早期対応が重要となってきた。食事介助の必要な方が増えてきており、基本的な介護技術の重要性や食べやすい食事の提供が求められている。そのため職員も専門的な知識を持って対応すること、各職種が連携し、協働していくことがより重要となってきた。

II 基本方針に対する評価

1. レクリエーション、外出行事を行い、入所者の満足感を得られた。
2. 各職種が連携し、協働して入所者の対応に努めた。
3. 資格取得を行い専門的な知識をもって連携を図り、安心を提供できるよう努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実
  - ・施設サービス計画書にそってサービスを提供。ご本人・ご家族の意見を伺い、定期的（年1回）に見直しをするとともに、3か月に1回多職種で見直しを行った。
  - ・給食職員の計画で毎月2回、季節感のある調理活動を実施。各ユニットで、歌や、体操などレクリエーションに取り組んだ。
  - ・入所者の62%が外出された。外気浴も含めると全員の方が外出された。
2. 家族との連携・協働の強化
  - ・ご家族の行事参加ー9家族が参加して下さった。
  - ・誕生会ー21名の家族に参加して頂いた。誕生会当日以外にお祝いに来て下さった家族もあった。
  - ・故郷訪問ー22名実施
  - ・年間面会者数 5,557名 (平均15名/日)

IV 能力開発目標の評価

1. 人材育成の強化
  - ・認知症実践者研修修了者2名 (総数15名)  
施設内研修年6回開催
  - ・吸引、栄養医行為認定者2名 (総数10名)
  - ・認知症サポーター養成講座の講師資格1名取得
  - ・デイサービス職員1名が介護老人福祉施設で研修(交換研修)。又、給食職員が介護業務を経験し、コミュニケーションの能力を高めた。(毎月)

V 地域目標の評価

1. 地域、家族への広報活動
  - ・三朝中学校(1行事)、三朝西小学校(1行事)、賀茂保育園(5行事)、みささこども園(2行事)と交流した。
  - ・老人クラブ運動会(3名)、三朝町民文化祭にリズムクラブ(10名)が参加した。
  - ・介護教室、ボランティアの交流会、在宅介護者の集いに講師として参加(年3名)
  - ・各行事、面会時に一緒に写真を撮りご家族に差し上げ、喜んで頂けた。

VI 業務目標の評価

1. 業務効率化の取り組み
  - ・1階リフト浴を活用し入浴するようにした。
  - ・天井リフトの活用、また、スライディングボード(移乗用福祉用具)の活用により、安心して楽な移動介助に努めた。
2. 安定的経営
  - ・入院者数は平均4.1人/日であった。(25年度平均入院者数2.9人/日)

<平成26年度入所者状況>

平均要介護度: 4.0

平均入院者数: 4.1人/日

退所者数: 11名(看取り1名)

待機者数: 120名

【参考:平成25年度】

【3.9】

【2.9人/日】

【23名】

【108名】

## 議案第3号

### 平成26年度 ケアハウス 事業報告 (案)

#### I 平成26年度の状況

ケアハウスは自立した方を対象とした施設だが、高齢化に伴いご利用者の心身機能の低下や認知症状の出現が見られるようになってきている。

今年度は体調不良による入院をきっかけに、ケアハウスでの生活が困難になられ他の施設に移られた方が3名、亡くなられた方が1名、認知機能の低下によりグループホームへ移られた方が2名、合計6名の退居者があった。

入居者の入れ替わりにより年齢層も幅広くなり、個々の日常生活動作の差も顕著となってきている。そのため、異常の早期発見及び心身機能の活性化を図った。

#### II 基本方針に対する評価

##### 1. ご利用者、ご家族に信頼される施設サービスを目指す

- ・健康管理について、ご利用者の体調変化や日頃の様子など気を配り、各関係機関や家族へ報告し連携を図りながら早期疾病対策に努めた。また、リハビリやレクリエーションを継続実施し心身機能の維持を図り生活の安定に努めた。

##### 2. 安定的事業運営を図る

- ・10月は1名減となった。満床を維持できるよう待機者へ連絡し、現状と意向の確認を行ったが、すぐの入居を望まれていない待機者が多いのが現状である。

#### III サービス目標の評価

##### 1. サービスの質の向上

- ・レクリエーションでは、特に頭と身体を同時に使うプログラムを取り入れていて、楽しく継続することができた。(参加率54%)  
利用者アンケート「楽しく参加」大変良い69%の評価を得た。(前年度20%)
- ・個人の希望に沿った外出を実施した。(5名)
- ・様々な趣味活動や季節行事を実施し、それぞれが選り参加して頂くことで生活の中の楽しみが提供できた。
- ・年4回ミニ講座を開催(防災・栄養・リハビリ・認知症予防)学んだポイントを各々が日常生活に取り入れられた。(参加率100%)
- ・コミュニケーションの輪が広がる取り組み(リズムクラブ参加、脳トレの実施、会話するおもちゃの活用等)を通して、談話室でご利用者同士が会話する機会が増えた。また、お互いに声を掛け合う姿も見られるようになった。

#### IV 能力開発目標の評価

##### 1. 職員の資質向上

- ・昨年、一昨年に引き続き中国地区及び全国研究発表会に出場した。
- ・レクリエーション研修に参加し、学んだことを毎月のレクリエーションで実践した。
- ・接遇面では、接遇チェック表を作成し定期的に評価を行った。毎朝のあいさつ標語の復唱、施設内研修への参加を通じ、より意識を高めることができた。利用者アンケート「職員のあいさつ」大変良い77%の評価を得た。(前年度47%)

#### V 地域目標の評価

##### 1. 地域の学校や住民と交流を深める

- ・町老人クラブ運動会、女性レクリエーション、芸能文化祭等、地域行事に参加し地域住民との交流を深めることができた。(年8回/延29名参加)
- ・運動会見学や交流会に参加され、子どもたちとふれあいを楽しまれた。(年10回/延40名参加)

#### VI 業務目標の評価

##### 1. 満床を維持するため待機者の確保に努める

- ・定期的に待機者に連絡を取り待機者の状況把握に努めたが、10月は1名減となった。
- ・先のことを考え早めに申し込みをされている方が多く、すぐの入居を望まれていない待機者が多いのが現状である。(待機者9名)

各月1日現在の利用者実績数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(人)	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	15

平成26年度 指定通所介護事業 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

通所利用を開始された方(新規利用者)は45名と年々増加傾向にあり、ご家族と連携を取りながら自宅での生活がよりよくなるよう利用者を支えてきた。(平成25年度新規利用者:33名)

個別レクでは身体全体を使用したものに取り組み、機能訓練では自宅での困りごとに対して訓練や指導を行い利用者の維持、改善に繋がっている。

II 基本方針に対する評価

1. 在宅生活で困っていること等、身体面、精神面からの支援をご家族と共に行った。
2. 利用者の思いを聴きながら寄り添い、対応に努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実を図る

- ・選択できるよう活動内容を出来るだけ多く設け自ら選んでもらうよう声掛けしていった。(選択メニューは2~5種類)
- ・家族に活動内容を写真等でお知らせし、自宅でも取り組みを続けてもらえるよう声掛けしていった。(連絡ノート)

2. 機能訓練の充実を図る

- ・利用者、家族に在宅生活での動作についての不安等聞き取りし、個別リハビリを実施した。(年間21件)
- ・利用日のみでなく毎日続けられる、自宅でできる簡単な訓練を提供することで機能維持に繋がった。(訓練実施者の要介護維持者33名中23名)

3. 利用者、家族との連携を図る

- ・「家族の会」を3回開催。参加者は17名で昨年より多くなってきているが計画より少なかった。参加者増に繋げていくためどうするべきかが課題である。
- ・入院や、都合で利用を中止されている方の訪問を行い、状況確認を行った。待ってもらっていると言う気持ちが喜ばれ、利用の継続に繋がっている。(年間34件)

IV 能力開発目標の評価

1. ミニ研修会の開催を行う

- ・定期的に自分たちの学びたいことや、学んでほしいこと等をミニ研修会で取り組んだ。そのことで振り返りや新たな知識を身に付けることが出来た。(年間5回実施)

2. 幹部ミーティングと他職種間の情報交換等の定期的実施

- ・幹部ミーティングを行うことで情報の共有ができ、幹部が同じ方向に向くことが出来た。それぞれの悩み等を話し合うことが出来た。(毎月実施)
- ・他職種との関わりが大きいので情報交換は有意義に実施することが出来、今後に活かすことに繋がった。

3. 各種研修への積極的参加

- ・各研修に声を掛けあい参加した。苑内研修への参加率が高かった。(年間12回 延べ37人参加)
- ・レクリエーション研修には年9回各職員交代で参加し、個別レクに活かした。
- ・認知症関連研修に参加し資格を取得した。(2名)

4. 介護と医療技術の向上

- ・介護老人福祉施設との交換研修として10日間(1名)研修した。たくさんの収穫を得て帰り、業務に活かすことが出来た。

V 地域目標の評価

1. 地域に発信する

町内の老人クラブや介護教室に出向く

- ・ 4回実施。三喜苑を知って頂く良い機会になった。地域交流室活用についてお話しし、使用された方もあった。次年度への介護教室継続に繋がった。

地域交流の実施

- ・ 年間計画（9回）通りに実施出来た。定期的参加者が増えてきた。

2. 地域交流会の参加

開催時は2人以上の参加

- ・ 2人以上参加に心掛けた。（年間延べ17人の参加）

3. ホームページの活用

4か月ごとの更新

- ・ 法人ホームページ・デイサービス部分の更新は1回のみだった。

VI 業務目標の評価

1. 収入月額650万円以上を目標とする

- ・ 利用者増もあり月平均723万円と達成出来た。

2. 業務の見直しを行う

記録物の見直し

- ・ 介護計画書と実績表を連動させることにより業務の簡略化が出来た。あらゆる記録物について簡略化した。

整理整頓を行う

- ・ 定期的に必要な部分の整理整頓を実施した。

3. 自動車の接触事故を減らす

統一した送迎方法の確立

- ・ 新規利用者については写真等で送迎方法の確認をした。地図を見やすくファイリングした。

定期的な報告、確認を行なう

- ・ 夕方のミーティング時に運転手（総務課）に参加してもらい運転に関する意見交換を行った。

4. 経費3%削減

- ・ 水道光熱費に関して5%削減した。

（平成25年度314万円：325円/人 ⇒ 平成26年度320万円：309円/人）

平成26年度デイサービス月別利用人数

（単位：人）

月	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
4	53	161	150	175	191	59	53	842
5	42	155	155	194	198	86	56	886
6	32	152	164	175	182	66	69	840
7	38	148	174	244	205	66	71	946
8	19	133	176	250	210	75	64	927
9	38	163	179	248	163	67	57	915
10	37	160	185	239	162	73	68	924
11	39	141	161	199	151	85	65	841
12	51	153	134	227	139	96	73	873
1	43	130	130	193	156	67	62	781
2	46	145	147	172	131	50	56	747
3	51	149	163	198	135	65	62	823
合計	489	1,790	1,918	2,514	2,023	855	756	10,345

備考：平成25年度利用人数：9,651人/年間（平成25年度との比較：694人増）

平均利用人数 平成25年度：31.0人/日 平成26年度：33.26人/日



平成26年度 指定短期入所生活介護事業 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

- ・退院後に在宅復帰できなくなって利用を希望されたり、重度の認知症により在宅生活が困難となり利用を希望されたりするケースも増えている。
- ・居宅の介護支援専門員と連絡調整をしながら、介護老人福祉施設の入院者の空きベッドも活用し利用ニーズに応じてきた。

II 基本方針に対する評価

1. 重度化対応とし、事前の状況把握と家族との細やかな連携に努めた。
2. 個々のケアプランに沿い、サービスを提供した。
3. 効率的な受け入れに努めた。

III サービス目標の評価

1. 個別ケアの充実に関しては下記の通り
  - ・ショートステイ計画を一月平均9件作成した。
  - ・サービス担当者会議等に一月平均6件参加した。
2. 家族、居宅介護支援専門員との連携の強化に関して
  - ・家族や介護支援専門員から在宅生活の状況把握に努めた。
  - ・利用中の状況報告を家族、介護支援専門員に伝えた。

IV 業務目標の評価

I. 安定的経営

- ・稼働率目標：平均16名/日 → 実績17名/日 = 達成

短期入所生活介護事業所

	平成26年度	平成25年度	差
要支援1	0	0	0
要支援2	41	91	△50
要介護1	204	420	△216
要介護2	290	713	△423
要介護3	1,993	2,345	△352
要介護4	2,262	1,505	757
要介護5	1,427	1,142	285
合計	6,217	6,216	1
平均介護度	3.7	3.3	0.4
1日平均人数	17	17	0
1人1日収入	11,297	10,871	426

平成26年度 グループホーム 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

三朝町の高齢化率は35%を超え、ますます進んでいる。要介護、要支援者の中には認知症を認める者も増しており、各種多様なサービスを利用しながら生活をされているのが現状である。

一人一人にあった認知症ケアを提供する事に心がけ、資質及び能力の向上に努めるとともに、利用者の尊厳を大切にし、住み慣れた地域で生活して頂けるように努力した。

II 基本方針に対する評価

1. 尊厳を大切にし、安心、安全な生活ができる環境を提供するとともに、ゆったりとした安らぎのある暮らしとなるように支援していく

- ・利用者の尊厳を大切にし、安心して生活できる環境を提供した。又、利用者の主体性に配慮した日々楽しみの持てる生活となるよう心掛けた。又、軽度の事故が発生しているため、個人個人に合わせた事故対応を検討し、実施している。

平成26年度事故件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	1	1	2	1	1	1	0	0	1	1	1	1	11

2. 地域と連携を深め、一緒に支えあえるネットワーク作りを目指す

- ・地地域交流会、地域の行事、畑の作業等を通じて顔馴染みとなり地域との信頼関係も徐々に深まってきている。

地域交流会 年9回開催 延べ人数 39人参加

とんどさん、奉仕作業、老人クラブ運動会 延べ人数 11人参加

III サービス目標の評価

1. 家庭的な環境のもと、ご利用者の主体性に配慮した支援を行うことで達成感、満足度の向上を目指す

- ・利用者の尊厳を大切にし、安心して生活できる環境を提供した。又、利用者の主体性に配慮した日々楽しみの持てる生活となるよう心掛けた。大家族のような家庭的な環境での生活、お互いの助け合いの心も芽生えてきた。

2. きめ細やかな対応により健康を維持し、自らの健康増進に取り組めるような支援の実施

- ・かかりつけ医、訪問看護師との連携により、相談や早期受診につながり、安心した生活ができています。又、個人の状態に応じて身体を動かす事を提供し、自ら健康増進に取り組めるよう支援した (年間入院日数 平成25年度：59日 平成26年度：67日)

#### IV 能力開発目標の評価

1. 質の高いサービスに向けた職員育成を目指し、研修等によりお互いに学ぶ機会を設ける
  - ・認知症介護実践リーダー研修をはじめ、ほぼ全員が研修に参加し、実践に役立っている。  
(認知症関係研修 年10回 延べ23人参加)
2. 資格取得を含めた研修の参加
  - ・介護支援専門員、介護福祉士資格取得に向け当法人勉強会等に参加した。  
(施設内研修 各6回実施 延べ4人参加)

#### V 地域目標の評価

1. 運営推進会議を開催
  - ・定期的(2ヵ月に1回)に運営推進会議を開催し、意見や要望を聞き、対処している。
2. 地域の方も参加される防災訓練の実施により地域との連携を図る
  - ・三朝町消防団(9名参加)の協力のもと夜間想定避難訓練を実施(1回)。今後も、地域住民との訓練を計画していく
3. 地域交流会を通じ、地域とつながりながら暮らしを続けられることで必要とされる事業所を目指す
  - ・定期的に行われる地域交流会の参加者は同じような方の参加ではあったが、楽しみの一つにもなっている。又、参加されるご利用者とも顔馴染みになってきた。

#### VI 業務目標の評価

1. 働きやすい環境整備(退職者なし)
  - ・業務改善をし、残業をなくし、働きやすい環境を目指している。
2. 安定的経営を目指す(入院者なし)
  - ・入院日数・平成25年度:59日 平成26年度:67日  
来年度に向けて、入院日数を削減する取り組みを実施する。
3. 経費3%削減
  - ・光熱費等3パーセント削減には至らないが、畑の野菜の収穫等楽しみながら、経費節約に努力していく。  
(光熱費平成25年度:115,000円 平成26年度:126,000円)

平成26年度 賀茂保育園 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

平成27年度から施行予定の子育て関連3法(子ども・子育て支援法、認定こども園法一部改正法、子ども・子育て関係整備法)に向け、平成26年度はその準備の年に当たり、全国の自治体は地域の実情に合った施策の策定に取り組んできた。三朝町でもその取り組みの一環として、住民アンケートを実施し、保育要望を掘り起こして、住民意識に密着した保育行政の計画策定に当たってこられた。

本園もその計画の中で、施設の在り方が論議され、三朝町全体としての保育・教育の在り方の中で、本園は保育に欠ける乳幼児を預かる施設として運営していくこととなった。

従って、三朝町から管理運営委託を受けている本園は、より質の高い保育・教育の推進が求められるところとなり、保育内容の見直し・充実を図るべく保育課程の見直しを図ってきた。また、保育技術向上のため、担任一人一人が公開保育(園内)を行い、互いに研鑽を深めた1年であった。

保護者・地域住民・関係機関の方々からは、好意的に理解と協力を得ることができ、円滑な園運営に大きく寄与していただいた。また、多種多様な交流を図ることができ、豊かな人間形成にも大きな働きかけにつながった。

II 基本方針に対する評価

1. 国の法令・基準・指針及び県や町の条例等に基づき、公平公正に保育を行うと共に、子どもの最善の幸福を願い、家庭・地域社会との一体化を図ることができた。
2. 園児が深い愛情と信頼の中で、創造性を育み、探究心を高め、伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう、人的・物的環境を整えることができた。

III サービス目標の評価

新規の事業はなく、昨年度の保育内容を継続する形となった。それぞれの事業での利用実績は次の通りである。

(1) 通常保育事業

総利用者数 1,219人(昨年度は1,318人、一昨年度は1,374人)

月別初日在籍園児数(利用者数) 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
95	94	97	101	103	104	105	104	101	103	104	108

(2) 特別保育事業

① 一時保育事業 総利用者数 92人(昨年度は56人、一昨年度は49人)

月別利用者数 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7	1	9	14	3	8	5	14	14	8	1	8

② 障害児保育事業

軽度障がい児2人在籍。2人とも同じクラスであったため、加配保育士1人を配置した。

③ 乳児保育事業 未満児10人の保育を実施した。

④ 延長保育事業(自主事業) 総利用者数 38人(昨年度は80人、一昨年度は88人)

総稼働日数 27日(昨年度は63日、一昨年度は55日)

月別利用者数 単位 人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4	0	0	3	5	3	2	5	4	8	1	3

#### IV 能力開発目標の評価

園長研修会・主任保育士研修会・保育士研修会・公開保育研究会・食育講演会・人権教育研究会などに積極的に参加し、園運営の向上及び保育技術や保育指導技術の習得に努めることができた。

(年間延べ191人参加)

#### V 地域目標「家庭や地域社会との連携を十分に図る」の評価

- ・町内他園との交流により、園長会・三朝町保育連絡協議会・調理員会への参加、食育・ノーテレビデーの推進など専門的に研究を深めることができた。(園長会・調理員会は毎月1回実施、他の会合は必要に応じ、年間数回開催した。)
- ・各地域協議会、老人クラブ、ボランティア団体との連携も図れた。(年間延べ15回実施)
- ・保護者研修会を開催し保護者の意識を高めることができた。

#### VI 業務目標の評価

目標(1) 「人的・物的環境を整え、安全で信頼に満ちた運営を目指す。」

人的・物的環境を整え、安全と信頼に裏打ちされた運営が推進できた。

目標(2) 「思いやりの心を持ち、支え合い・助け合う人づくり、職場づくりに徹する。」

理念や基本方針に基づき職員教育の徹底を図ることにより、知識や技能の習得のみでなく、相互に協力し合う体制づくりに努めたため、保育理念や目指す子ども像実現へ向けての一致結束した取り組みができた。

目標(3) 「保育課程を見直し、子どもの発達に即した適切な内容を体系立て、年間計画として整備する。」

年度中途の実践に於いて、課題だと認識した場合は年間計画書に印を付け、毎月の職員会にて議題として採り上げ、常に改善を目指した取り組みができた。

目標(4) 「経営的に収支のバランスのとれた安定的な経営を目指す。」

経営面では受入れ定員が100人のまま変わらず、年間利用人数がやや減ったことなどにより、安定的な経営とは言えなかった。

平成26年度 認知症対応型通所介護事業 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

三朝町の高齢化率は35%を超え、ますます進んでいる。要介護、要支援者の中には認知症を認める者も増しており、各種多様なサービスを利用しながら生活をされているのが現状である。

一人一人にあった認知症ケアを提供する事に心がけ、資質及び能力の向上に努めるとともに、利用者の尊厳を大切に、住み慣れた地域で生活して頂けるように努力した。

II 基本方針に対する評価

1. 尊厳を大切に、安心、安全な生活ができる環境を提供するとともに、ゆったりとした安らぎのある暮らしとなるように支援する
  - ・ご利用者の希望に添った生活、専門職としての気づきのある支援に心掛け、家庭的な雰囲気を崩さず、ゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりをした。
2. 地域と連携を深め、一緒に支えあえるネットワーク作りを目指す
  - ・グループホームと同じ 町芸能祭へ1名の参加あり

III サービス目標の評価

1. 家庭的な環境のもと、ご利用者主体の支援を行うことで自宅生活の活性化を図る
  - ・食事の用意から片づけ・調理といった家庭での生活の延長のような生活環境を取り入れた事で、自宅でも手伝いをされるようになった。今後も本人や家族の満足のいく関わりをしていく。
2. きめ細やかな対応により健康を維持し、悪化させない
  - ・体調の変化や気づいた事は、ご家族や三喜苑デイサービスへ報告・確認をとり、健康の維持に心掛けた。(入院者数2名 延べ日数 29日) 体調管理に一層気をつけていく。

IV 能力開発目標の評価

- ・グループホームと同じ

V 地域目標の評価

- ・グループホームと同じ

VI 業務目標の評価

1. 働きやすい環境整備
  - ・業務改善し、残業がなくなり働きやすい環境づくりを継続中。
2. 安定的経営を目指す
  - ・年間利用者：目標360回(月延べ30回)に対して、実績は260回(月延べ21.6回)と達成できなかった。(平成27年3月は月延べ53回)  
利用者の獲得に努め、早期安定経営を目指していく。
3. 経費3%削減
  - ・光熱費等3パーセント削減には至らないが、畑の野菜の収穫等楽しみながら、経費節約に努力していく。(光熱費：平成25年度 2,500円 平成26年度 7,500円)

平成26年度認知症デイサービス利用者数 (\*延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	6	8	5	7	14	20	18	23	27	31	48	53	260

平成26年度 指定居宅介護支援事業 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

要介護者となっても、できる限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括システムを日常生活圏で実現していくことが重要な政策課題となっている。町民の利用者が必ず三朝町内の居宅介護支援事業所を選択するのではなく、介護支援専門員や事業所の資質を見て選択していく事もある。当事業所では、三朝町内の利用者に対し、町内事業所ならこそそのつながりができるように地域との連携を強化する取り組みを行った。

II 基本方針に対する評価

1. 利用者に対して自立支援型のケアマネジメント（介護計画作成）ができるように努めた。
2. 在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域機関等との連携を深める取り組みを行った。
3. 利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進められるよう努めた。

III サービス目標の評価

1. 利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように、業務の見直しや取り組みを進めた。
  - ・サービス担当者会議で出席者へ事前に資料配布できるように努めた。
  - ・アセスメントシート（利用者状況）を見直しし、使用した。

IV 能力開発目標の評価

1. 研修に参加し業務の見直しを図った。
  - ・介護支援専門員連絡協議会、社会福祉士会等の研修に参加した。（年間26回）
  - ・事業所内で勉強会を実施した。（年間6回）

V 地域目標の評価

1. 地域機関等との連携を深めた。
  - ・三喜苑が担当している利用者の地区の民生委員への挨拶回りアンケートを実施し関係作りを図った。
  - ・町内事業所の集まりの「三朝をなんとかしよう会」のとりまとめを実施した。（年間4回開催）

VI 業務目標の評価

1. 利用者確保
  - ・年度末利用数の目標件数と実績  
要介護：目標75件・実績71件  
要支援：目標30件・実績32件  
（平成25年度実績 要介護67件 要支援26件）
2. コストを意識した業務改善
  - ・業務の見直しでプリントアウトの削減を図った。

平成26年度 訪問看護ステーション 事業報告 (案)

I 平成26年度の状況

平成26年度訪問看護ステーションみささの利用者は減少傾向である。(利用者の入院、施設入所があったため) 国も地域包括ケアシステムを推進しており訪問看護利用者は今後増加傾向であると思われる。

24時間対応体制をとっていないことも収入が伸びないことにつながっていると思われる。早期に再開できるよう体制を整える努力をしていきたい。

II 基本方針に対する評価

1. 在宅療養が継続できるように重症化予防とリスク管理をし、“安心”を提供する

・重症化予防ができるよう異常の早期発見に努めた。重症化しないように、早め早めの対応を心掛けた。又、24時間対応体制をとっていないので、早めに主治医・介護支援専門員に連絡するよう心掛けた。

2. きめ細やかな対応と質の高い看護を提供する

・苦情はないことから満足していただける看護が提供できていると考える。利用者家族にも気を配り体調管理の声掛けなど行っている。

3. 地域の関連機関と連携を密に選ばれるステーションを目指す

・新規利用者の問い合わせはあるが利用にはつながっていない。要望された内容に対応できるステーションになる必要がある。

III サービス目標の評価

1. 専門性を高め、質の高い看護を提供するために、マニュアルの見直しと作成をし、チームで統一した看護を提供する

・一部マニュアルの見直しを実施したが、チームで統一した看護を提供するためには全体的にマニュアルの見直しも必要と考える。

2. ケース検討会を通し、提供している看護の振り返りをし、在宅療養者中心の看護を提供する

・ケース検討会、日々の報告を通し提供している看護の振り返りをして利用者中心の看護を提供した。

3. 在宅療養者の生活を支援するため、24時間対応体制の提供に向けた活動をする

・年度途中で職員の異動があり24時間対応体制再開は実現しなかった。

IV 能力開発目標の評価

1. ターミナル利用者に対して在宅緩和ケアをチームで提供できるようにする(研修参加と書式の作成)

・ターミナル利用者がなくできなかった。



2. 得意分野の向上及び最新看護を習得し、実践できるよう個々の目標とする研修に参加する（一人一研修参加）全職員訪問看護養成講習会履修する。
  - ・得意分野の向上につながるよう研修参加ができた。又、訪問看護師養成講習は、全職員履修済みとなった。

#### V 地域目標の評価

1. 行政機関、福祉サービス機関、医療機関に毎月情報提供し、カンファレンスに参加する
  - ・行政機関、福祉サービス機関、医療機関等と普段からの関わりを重視し連携できた。又、今後も信頼されるステーションを目指すことが必要。
2. アンケートを継続実施し、在宅療養者に望まれる訪問看護ステーションを目指す
  - ・アンケートは本年度未実施だった。今後は利用者、家族の思いを聴き、その思いを汲み取るために継続実施をして望まれるステーションを目指す。
3. 地域交流会で地域と交流し、要望があれば講師派遣等、地域に応じていく
  - ・地域交流会（年9回）介護予防教室（年1回）でミニ講演会を行った。

#### VI 業務目標の評価

利用者の減少に伴い、看護師4人で算定していたが、年度後半については3人で業務にあたった。

1. 利用者数の定着（看護師：利用者＝1：10）目標40人
  - ・実績32人
2. 一ヵ月利用回数の定着（1日あたり12件25日として）目標300件（1人あたり75件）
  - ・実績200件（1人あたり66件）
3. 一ヵ月の収入（1件あたり8,000円として）目標240万円
  - ・実績160万円